日赤なら

平成 31 年度



平成 30 年 7 月豪雨災害
岡山県倉敷市にて こころのケア活動を行う
奈良県支部救護班

県民のみなさまには、赤十字事業の推進につきまして、日ごろより格別のご協力を賜わり、心から厚くお礼申し上げます。

日本赤十字社は、**災害等からいのちを守る**ため、救護活動や被災者支援などの**人道活動**を行っています。奈良県支部では、「**防災・減災講習**」、「**赤十字ボランティアや青少年赤十字の育成**」、災害などで被災された方々の「**救護活動**」をはじめ、いざという時に役立つ「**赤十字講習**」や「**血液事業**」など、さまざまな活動を展開しています。

赤十字活動はすべて、皆さまお一人お一人からの「**会費**」や「**寄付金**」、そして多くのボランティアの方々によって支えられております。

皆さまのあたたかいご支援ご協力を賜わりますよう、心からお願い申し上げます。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
奈良県支部

〒630-8133
奈良市大安寺1丁目23番2号
TEL：0742-61-5666
FAX：0742-61-5756
http://www.nara.jrc.or.jp/

災害救護活動



地震や台風などの災害で被災された方々を救うため、救護班の編成と訓練、救護資機材・救援物資の整備、防災ボランティアの研修など、災害救護体制の強化に努めます。また被災された方々のための義援金募集活動も行っています。

災害救護体制の構築

□**奈良県立病院機構（奈良県総合医療センター・奈良県西和医療センター）、南和広域医療企業団（南奈良総合医療センター）、市立奈良病院、大和高田市立病院、奈良県立医科大学附属病院と救護班派遣の委託契約**を締結しています。

□**医療チームを統合調整する医療コーディネータ及びコーディネートスタッフの養成**をしています。

□**救護班への研修や、近畿ブロック合同訓練・県防災訓練などの実働訓練に参加**しています。


救護所での医療救護活動

地域や家庭で防災・減災について考えてみませんか？

災害からいのちを守るための地域の防災力向上として、「赤十字防災啓発プログラム」を普及しています。
地域コミュニティでの「自助」「互助」「共助」の力を高めるために、次のような講習会などを行っています。

□災害エスノグラフィー

過去の大規模災害における被災者の経験談を再編集して1つの読み物を作り上げ、読み物を通じた過去の災害の追体験をすることで、被災の具体的なイメージを把握・理解します。

□災害図上訓練DIG

自らの居住地域で、防災上の資源や災害時に出現する危険性を地図に明記し、個人や地域単位であらかじめ行うべき取り組みについて、グループワークを通じて検討し理解を深めます。

□災害への備え

災害（特に地震、津波、大雨・土砂）からいのちを守り、身の安全を確保するため、普段から準備すべきことを学びます。


災害図上訓練DIG(天理市赤十字奉仕団)

救護資機材・救援物資の整備

南海トラフ地震などの大規模災害に備え、奈良県支部では救護資機材（救護所用大型テント・災害救護車輌・衛星電話など）の整備や、救護班の派遣等に必要な非常食の備蓄と、救援物資（毛布・布団・バスタオル・緊急セット・安眠セット・タオルケット・ブルーシート）の備蓄をしています。

引き続き、**2019年度より3ヵ年計画で救護資機材の更新と救護班要員装備品の整備を行う**とともに、災害発生時に迅速に救護活動が実施できる体制を構築するため、企業・団体との災害時協定の締結にも取り組みます。


災害救援車（地区分区配備）



救援物資（毛布）

★2019年度配備予定★

- 救急車及び災害救援車
- 災害救援車（地区分区配備）
- 救援物資(ブルーシート・布団)
- 非常食の備蓄
- 救護服、救護班用Tシャツ
- タブレット
- デジタルカメラ
- ポータブルLED作業灯
- AEDバッテリー
- ターニケット(止血帯)　など

国際活動

世界とつながる



世界 191 の国と地域で組織されている赤十字は、赤十字国際委員会や国際赤十字・赤新月社連盟と連携を図りながら、国境、民族、そして宗教もこえて、紛争、災害、貧困などで苦しむ人々のために、支援しています。

また、奈良県支部では本社と連携し、フィリピン保健医療支援事業への復興支援や、中東人道危機、インドネシア・ロンボク島地震など、海外で発生する大規模災害や紛争の被災者の救援金募集などの緊急支援に取り組みます。



フィリピン保健医療支援事業

救護看護師の養成

国内外で活躍
できる看護師の養成





実技演習の授業風景

豊かな人間性と看護に関する幅広い能力と、災害救護の専門知識を兼ね備え、国内外を問わず、広く社会に貢献できる看護師を養成するため、大阪赤十字看護専門学校に委託しております。

また、赤十字看護学生には、奨学金制度を設けております。

青少年赤十字

思いやりを育む



将来を担う児童・生徒が、自ら「気づき・考え・実行する」という生きる力を養うため、先生等の青少年赤十字指導者の協力のもと、学校教育の現場で豊かな人間性や社会性を育む活動をしています。

青少年赤十字加盟校並びに新しい指導者を養成するため、青少年赤十字防災教育推進事業として「AED講習」や「防災講習」を行うほか、青少年赤十字加盟校が取り組む自主的かつ積極的な活動を支援する「青少年赤十字活動支援事業」を設けています。

また、幼稚園、保育園向け防災教育教材「ぼうさいまちがいさがし　きけんはっけん!」を活用し、未加盟園の加盟促進と、園児たちが、さまざまな災害からいのちを守る方法など講習を通じて普及します。



防災教育講習



青少年赤十字トレーニングセンター

加盟校募集中!

実践目標
- 健康・安全
- 奉仕
- 国際理解・親善

赤十字講習

～大切ないのちと健康を守るために～



「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という、赤十字の使命に基づき、緊急時や災害時に人命を救う方法や、健康で安全に暮らすための知識と技術を広めるため、次の講習を実施しています。

また、地域包括ケアシステムに貢献できるよう、地域包括支援センターなどと協働して、生活支援・介護予防のための講習普及にも取り組んでいます。


救急法講習


水上安全法講習


健康生活支援講習

□救急法講習

一次救命処置や急病や骨折など、けがの応急手当などについて学べます。

□健康生活支援講習

高齢者との接し方や介護のしかたなどについて学べます。

□ 水上安全法講習

泳ぎの基本と事故防止、おぼれた人の救助方法などについて学べます。

□幼児安全法講習

子どもに起こりやすい事故の予防とその手当などについて学べます。

□災害時要配慮者生活支援講習

避難所での生活支援の方法・こころのケアについて、また防災・減災のための対応などについて学べます。

血液事業



血液センターでは、県内各地で献血をお願いし、24 時間体制で安全な血液を安定的に医療機関へお届けしています。

また、将来の献血を支える若年層への啓発として、献血セミナーや学校献血に取り組んでいます。

献血にご協力をお願いいたします。

献血基準	成分献血		全血献血	
	血漿	血小板	200mL 献血	400mL 献血
年齢	男女とも 18 歳～69 歳※	男性 18 歳～69 歳※	男女とも 16 歳～69 歳※	男性 17 歳～69 歳※
		女性 18 歳～54 歳		女性 18 歳～69 歳※
体重	男性 45 kg以上・女性 40 kg以上			男女とも 50 kg以上

※65歳から69歳までの方は、60歳から64歳までに献血の経験がある方に限ります。

愛の血液助け合い運動



献血場所

奈良県赤十字血液センター
大和郡山市筒井町600-1
TEL.0743-56-5916

近鉄奈良駅ビル献血ルーム
奈良市東向中町28 奈良近鉄ビル6階
TEL.0742-22-2122

赤 十字ボランティア

活動を支える



“赤十字のボランティア活動を通じて、地域社会を住みよくしよう”

という気持ちをもった人々の集まりで、年齢や性別は問わず、災害救護や献血の推進、講習会の普及や赤十字事業の推進をはじめ、地域社会のニーズに応じた幅広い活動に積極的に参加・協力しています。

奈良県支部では、赤十字ボランティアの自主性を尊重し、地域のニーズに応えた魅力ある活動を支援してまいります。

□地域赤十字奉仕団

全体の取組みとして、地区委員会や研修会の開催、ハンセン病施設訪問（岡山県）への協力などを行なっています。また、地域活動では、防災訓練への参加、モデル奉仕団活動、献血協力の呼びかけ、クリーンアップならキャンペーンへの参加、海外たすけあいの募金活動と受付協力などの活動のほか、老人ホームでの交流会や地域での清掃活動などに取り組んでいます。

また、今年度より、**地域奉仕団活動促進助成金交付事業として、赤十字活動に対する県民の理解を深化させ、健康で安心に暮らせる共同社会の構築に寄与する奉仕活動**を行います。



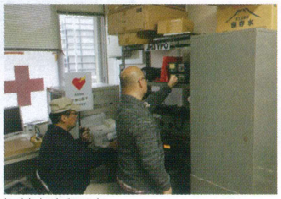
災害義援金募集活動



献血協力の呼びかけ

□無線・救護赤十字奉仕団

無線技士の資格を活かし、災害時の情報収集や伝達を担うため通信訓練や救護活動を行っています。



無線伝播調査

□ 安全法指導赤十字奉仕団

赤十字の指導員資格を有し、健康で安全に暮らすための知識や技術をつたえる講習を普及しています。



講習指導

□青年赤十字奉仕団

勤労青年や大学生で組織され献血の呼びかけや青少年赤十字のサポートなどを行っています。



ボランティア・リーダー研修会

□看護赤十字奉仕団

看護師の資格を有し、公共性の高い行事への臨時救護などの活動を行っています。



研修会

□青少年赤十字賛助奉仕団

青少年赤十字の指導に当たっていた先生で組織され、青少年赤十字を支えています。



総会

□赤十字防災ボランティア

災害発生時に、奈良県支部が行う救護活動や被災者支援のための活動を行っています。



担架搬送訓練

赤十字活動資金にご協力をお願いします

活動資金へのご協力方法

① 自治会・町内会や赤十字奉仕団を通じてのご協力
② 奈良県支部やお住いの市町村の赤十字窓口でのご協力
③ 銀行・郵便局・JA ならけんからのお振込みによるご協力

金融機関	口座番号	加入者名
郵便局	00950-9-105293	日本赤十字社奈良県支部
南都銀行南支店	普通預金№0442508	
JAならけん	普通預金№0009950	

※ 振込用紙の通信欄には、「活動資金」とご記入下さい。
※ 南都銀行・JA ならけんからお振込の場合は、奈良県支部へご連絡ください。振込用紙を送付いたします。

④ 口座振替・クレジット決済によるご協力
※ 口座振替には専用の振込用紙がありますので奈良県支部までご連絡ください。
※ クレジットカード決済は、日本赤十字社のホームページからお申し込みをお願いします。http://www.jrc.or.jp/

⑤ 企業・団体の「CSR 活動」によるご協力
※ 寄付金付き自販機の設置・売上金の一部を赤十字へご寄付・チャリティイベントによる収益金ご寄付・災害時の協定　など

⑥ 遺贈によるご寄付や相続財産のご寄付
※ 詳しいパンフレットをご希望の方は、奈良県支部までご連絡ください。

❖ 日本赤十字社へのご協力は、税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは、奈良県支部へお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

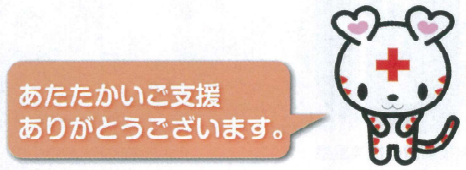
表彰制度について

●日本赤十字社の表彰

項　目	表彰基準
支部長表彰状 支部長感謝状	活動資金として、一時または累計で 10万円以上を納められた個人・法人
銀色有功章社員	活動資金として、一時または累計で 20万円以上を納められた個人・法人
金色有功章社員	活動資金として、一時または累計で 50万円以上を納められた個人・法人
日本赤十字社感謝状	金色有功章受章後、更に活動資金として 50万円以上を納められた個人・法人

●国の表彰

項　目	表彰基準
厚生労働大臣感謝状	活動資金として、 100万円以上を納められた個人 300万円以上を納められた法人
紺綬褒章	活動資金として、 500万円以上を納められた個人 1,000万円以上を納められた法人



平成29年度決算

収入の部	決算額（円）
社資収入（地区分区（市町村）及び支部を通じた個人、法人からの会費、寄付金）	127,546,382
補助金及び交付金収入（日本赤十字社本社からの交付金）	6,956,967
繰入金収入（災害等資金積立金、国際救護活動資金の繰入）	7,500,000
雑収入（講師派遣収入、講習用教材費収入等）	5,607,817
前年度繰越金	150,566
収入合計	147,761,732

支出の部	決算額（円）
災害救護事業費（災害に備えた救護装備、救援物資整備費、医療救護訓練費、救護看護師養成費等）	17,130,991
社会活動費（救急法等講習普及費、奉仕団及び青少年赤十字育成費、血液事業普及費）	36,141,887
国際活動費（ケニア地域保健強化事業費:近畿共同事業費）	1,028,000
指定事業地方振興費（災害救護資機材整備費）	4,028,000
地区分区交付金支出（地区分区（市町村）における赤十字活動費）	10,774,525
社業振興費（赤十字思想の普及啓発費、会費・義援金募集、会員管理費、全国赤十字大会参加費）	25,207,067
積立金支出（退職給与資金特別会計積立金）	5,000,352
総務管理費（支部の事業管理運営費）	29,192,212
資産取得及び資産管理費（施設管理費）	1,015,448
本社送納金支出（日本赤十字社本社への送納金）	18,077,757
支出合計	147,596,239
次期繰越金	165,493

平成31年度予算

収入の部	予算額（円）
社資収入	215,000,000
補助金及び交付金収入	6,919,000
繰入金収入	1,100,000
雑収入	4,981,000
前年度繰越金	20,000,000
収入合計	248,000,000

支出の部	予算額（円）
災害救護事業費	39,150,000
社会活動費	44,220,000
国際活動費	1,100,000
指定事業地方振興費	3,000,000
地区分区交付金支出	16,390,000
社業振興費	34,030,000
積立金支出	50,000,000
総務管理費	27,050,000
資産取得及び資産管理費	1,232,000
本社送納金支出	29,250,000
予備費	2,578,000
支出合計	248,000,000